

2022年度 社会福祉法人釧路百葉福祉会 事業報告

2018年度より法人事業計画を作成し、法人の理念と基本方針、年度ごとの課題を明確にし、それに基づいた運営に努めてきました。

2022年度の課題の達成状況は以下のとおりです。

1. 法人の管理運営の充実

昨年12月の法人指導監査では、法人の業務執行を決議する意思決定機関である理事会の役割をあらためて確認することができました。理事会で理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告を開始するとともに、業務執行理事職務及び理事長専決規定を改定する等の改善を行いました。

2. 保育園の管理運営

保育士の欠員が続き、コロナ禍のもとで職員間の交流や学習、意見交換の場をしっかりと保障できない中、子どもたちの健康と安全を守り、豊かに育つ取り組みに努めてきました。この間の職員の個人面接では園の運営について様々な意見が出されています。これらを今後の運営に生かしていくとともに、どんぐりのめざす保育を職員間で共有し、チームとしての保育を進めるとともに、働きやすい職場づくりを進めていきます。

両園で新たに開始した保護者との個別面談は、家庭での様子がわかり子どもへの理解が深まるとともに、子育て支援の場にもなりました。3月には保護者アンケートを行い、様々な意見を寄せていただきました。今後もこれらの取り組みを継続し、園の運営に生かしていきます。

3. 職員の確保、処遇改善

保育士の欠員の補充を、紹介会社の活用も行いながら努めてきましたが、厳しい状況が続きました。新年度に向けての取り組みでは、採用試験により4名の保育士を確保することができました。この成果を今後に生かしていくことが重要です。

4月から正規職員2号俸、常勤臨時職員及び臨時職員1号俸の定期昇給を行い、一時金については正規職員4.2カ月、常勤臨時職員3.5カ月を支給、期末手当は正規職員及び常勤臨時職員0.3カ月、臨時職員5000円の支給を行いました。

これまでまとめて支給していた処遇改善加算分を4月より毎月支給することとして、正規職員及び常勤臨時職員に対して13000円の支給を開始しました。

労働組合からの要求を受けて、実習手当の増額を行いました。

4. コロナ対策、安全・リスクマネジメントの取り組み

釧路市内でのコロナ感染が拡がり、園内でも濃厚接触者や陽性者が発生しましたが、自宅待機や登園自粛をお願いしながら、釧路市や保健所等とも連携しつつ感染拡大を防ぐ努力を行ってきました。各種行事にも大きな影響がありましたが、感染予防の観点と保護者の思いをあわせて検討する中で、工夫しながら開催してきました。感染性胃腸炎も発生しました。5月からコロナ感染が5類に移行しますが、引き続き感染対策は重要な課題であり、学習や対応についての検討を行っていきます。

昭和では釧路商業高校に災害用備蓄品を保管してもらえるようになりました。引き続き外部機関や行政との連携を強める中で防災対策を充実させていくことが重要です。

5. 各種規程の整備

正規職員、常勤臨時職員、臨時職員の就業規則の改定を行いました。

法人指導監査を受け、業務執行理事職務及び理事長専決規定、経理規程の改定を行いました。

6. 法人ホームページ、園のリーフレットの更新

園のリーフレットの更新を行いました。

7. ICTの検討

保護者が写真を注文できるアプリを導入し、職員の業務軽減に結び付けました。

8. 経営の課題

法人の中長期計画では、毎年500万円の積立を目標としていますが、2022年度は昭和で500万円、治水で700万円の計1200万円の積立を行うことができました。2018年度からの5年間

で4400万円の増額となりました。

9. 会議の開催について

(1) 理事会の開催

3カ月毎に4回開催しました。
監事監査も3カ月毎に4回開催しました。

(2) 評議員会の開催

定時評議員会を6月に開催しました。この間、コロナ禍で年度内の2回目の開催を控えていましたが、1月に開催することができました。

(3) 法人事務局会議の開催

毎月1回開催することができました。

10. その他

以下の工事・修繕を行いました。

昭和：給食室シンク水栓取替
0歳児室・ホール床修繕
散歩車用物置設置
掲示板の設置
街灯2基設置
給湯器取り換え
テラス研磨・塗装
包丁殺菌庫取り換え
コンセント増設
床暖コントロール取り換え
非接触水道栓取替工事（3カ所）：感染症対策補助金活用

治水：食器乾燥機・炊飯器更新
砂場柵修繕、砂場専用ネット交換
飛び出し防止対応用安全ネット設置（2・3歳テラス付近）
給食室ガスコンロ交換
1・2歳児室内に固定柵設置
園庭水道・非常階段下回りにクッション材取り付け
ボイラー修繕
玄関掲示板2か所を磁石対応掲示板に変更
トイレタンク交換
インターフォン子機交換
3階保育室レースカーテン交換
非接触水道栓取替工事（3カ所）・換気用扇風機設置（2カ所）：感染症対策補助金活用

以上

(1)総括

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、当園でも7月以降感染者が散発し、11月には園内で感染が拡大しました。また、年度途中での職員の退職が複数あり、職員体制はとてもしんどかったのですが、保護者や職員の協力を得ながら、こどもたちのために奮起して乗り越えてきた一年ではなかったかと思います。退職者が続いたことで職員のメンタルが心配でしたが、職員面談を行い園の課題を探り、法人とも相談を重ね最良の方法を考えてきました。また、職員集団作りの学習を行う中で、何か問題が起きた時に、保育目標に照らし合わせながら共に考えるという土壌づくりが出来ました。さらに、今後を見据えたリーダーの体制づくりを検討してきたことは大きな成果でした。2023年度からは新しい体制でスタートし職員の意識の変化が見られています。
- 経営面では、大きな修繕を行いながらも人件費の積み立てを行うことが出来ました。結果は良かったのですが、職員体制の厳しさから、園長が管理責任者としての経営把握を十分に担えていなかったことが最終補正予算と決算との開きに顕著に現れました。次年度の課題です。
- 保護者支援では、全家庭対象に面談を実施しました。園と家庭との様子を伝えあうことが出来、保護者にも好評でした。継続して年間行事計画の中に入れていきたいと思います。また、懇談会も年2回行い、園での様子を映像で伝えあいました。親の会活動がほとんどなく、保護者同士の交流の機会が失われてきたコロナ禍でした。年度末の懇談会の中で、保護者同士が子育ての大変さなどを共感しあう場面があり、改めて懇談会だけでなく保護者の日々のつながりを作っていく事の大切さを実感しました。また、地域の子育て支援では、園開放とクラスのお店屋さんごっこを繋げて地域の方に楽しんでもらい、いい交流ができました。このような活動をもう少し取り組んで地域の子育て支援に繋がりたいと思います。

(2)保育園の運営状況

年間利用者数

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 園児数 | 71 | 71 | 71 | 71 | 71 | 71 | 71 | 70 | 71 | 72 | 72 | 72 |

職種別職員数(3月末日現在)

| 園長 | 保育士(パート) | 保育補助 | 栄養士 | 調理員 | 事務員 | 用務員 |
|----|----------|------|-----|-----|-----|-----|
| 1名 | 22名(10名) | 1名 | 1名 | 4名 | 1名 | 1名 |

(3)2022年度の課題の取り組みについて

1 保育園の管理運営の充実

- 両園長で様々な対応を協議し、毎月の事務局会議で確認をしてきました。2023年度は、事務局会議の後に両園長会議を定例化し、充実させていきたいと思います。
- 世代交代を見据えて、リーダーの体制の検討を行ってきました。職員の集団作りの課題も見

え、役割の見直しを行い、2023年度は主任を次のリーダーに引継ぎ新しい体制でスタートしました。今年度は両園の主任・園長の交流ができませんでした。新体制になったので、意識的に交流を行っていきたいと思います。

2 研修の充実（実施内容は別途記載）

- どんぐりの保育で大切にしたい事の中から自然や戸外遊びに焦点を当てグループ討議を行いました。こどもの頃にあそんだことなども共有しあいながら、その遊びがどんな姿につながっていくのかを考えあいました。
- 今年度も引き続きこども理解の研修を深めました。特に発達支援について、臨床心理士の安沢先生に定期的に来ていただきカンファレンスを行ってもらい、こどもの姿をどのように理解し環境を整えるのかを学びました。2月には振り返りを行い、各クラスで学んだことを共有することが出来ました。療育機関の先生ともつながり、行動を理解し対応を学ぶことが出来ました。
- キャリアアップ研修は引き続きリモートで計画的に受講することが出来ました。
- コロナ禍で全国規模の研修をリモートで受けることが出来、研修の幅が広がりました。
- 他園の公開保育に職員を出すことが出来ました。参加した職員が学んだことを活かしながら生き生きと保育をする姿に変わり、交流の大切さを感じました。
- 保育士による不適切な保育の報道が続く中、自分達はどうかと振り返り、どんぐりが大切にしたいことや職員集団作りをテーマに学びあうことが出来ました。

3 職員の確保・処遇改善

- 処遇改善Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを活用し、毎月手当として支給し処遇改善を図りました。
- 年度途中での常勤職員の退職が2件ありました。幸い、業者からの紹介ですぐに職員の補充はできましたが、手数料が経営を逼迫しました。
- 国の配置基準は満たしていますが、配慮を必要とする子が増えており、あと一人保育士がいればもっと丁寧に見てあげられるのという職員の思いを痛いほど感じた一年でした。処遇改善は賃金の改善だけではなく、働きやすい職場環境を作るための人員確保が必要だと感じます。

4 コロナ対策・安全・リスクマネジメントの取り組み

- 6月に未満児クラスで胃腸炎が複数出ましたが、昨年度の教訓を踏まえ、胃腸炎はノロウイルスだと思って、しばらくの間塩素での消毒作業を行った事で早い終息に結びつきました。
- 新型コロナウイルス感染症は、7月下旬から散発し、11月には職員と園児が同日に発症し、複数クラスに感染が広がりました。家族間での感染も多く、他の職員も複数感染しました。終息に2週間ほどかかりましたが、保護者の協力と理解を得、保育を継続することが出来ました。12月以降は感染者もおらず、行事等も予定通り行うことが出来ました。5類になるまではなるべくクラス単位で保育を行い感染を拡げないように配慮しましたが、こどもの発達にとってはどうだったのか検証が必要です。(5類になってからの姿に変化はあるか)
- 園児健診(2回)・歯科検診・職員の健診は感染状況を見ながら実施しました。また、医療の面で心配なことは園医に相談しながら対応を考えることが出来ました。

- ・避難訓練は毎月実施し、様々な災害に対応できるよう職員で確認し改善しました。保護者への一斉メール送信訓練も実施しました。また、避難所となる釧路商業高校に災害時の備蓄品を保管していただくことが出来ました。大津波避難訓練も実施しましたが、冬場なので学校側に配慮し中庭までとなったため、2023年度は実施時期を夏場に変更しました。

5 各種規程の整備

- ・正規職員、常勤臨時職員、臨時職員の就業規則の改定を行いました。
- ・法人指導監査を受け、業務執行理事職務及び理事長専決規定、経理規程の改定を行いました。

6 法人ホームページ・園のリーフレットの更新

- ・園のリーフレットを更新しました。
- ・ホームページに園だよりを掲載し保育の様子を発信しています。求人情報も掲載しています。

7 ICTの検討

- ・ICTを活用した写真の販売を開始しました。職員が行っていた印刷・取りまとめ・集金等の業務軽減につながりました。今後は連絡網・おたより等の活用を検討します。

8 経営の課題

- ・職員の入れ替わりはありましたが、職員の平均経年数が12年となり、今年度もチーム保育推進加算が付いたことで、床やテラス等の大きな修繕を行った上で積み立ても行うことが出来ました。
- ・しかし、個別対応のお子さんが増えたこと、年々事務仕事が増えている事、子育てや親の介護での休暇が取りにくい等、これまでの職員配置では職員への負担が大きく、新たな退職者が出てもおかしくない状況です。そのため、2023年度は職員を増員しましたが、経営は非常に厳しくなりました。改めて国のこどもにかかる予算水準の低さを感じるとともに、限られた予算の中でどうこどもと職員を守るのか、法人だけではなく、職員とも一緒に考えていきたいと思えます。

9 会議の開催

- ・コロナ禍で体制が取れずに書面での確認になった会議もありますが、基本的には感染対策を取り対面での会議を重視しました。また、職員の負担軽減を考慮し、報告が中心となっていた未満児会議をなくし、意見が出やすいように名称を未満児交流会に変更し年2回実施しました。クラスの様子、職員の思いが伝わる交流会になりました。
- ・会議については、職員面談の中でも夜の会議を少なくしてほしいという声が上がっています。会議のあり方や進め方を改善しているところです。
- ・市外の会議への参加が難しく、他市町村との交流の機会がありませんでした。コロナが5類になったので、今年度は対外的な会議への参加も行っていきたいと思えます。

10 修繕等

下記の修繕・備品の購入を行いました。

- 4月 給食室シンク水栓取替
- 5月 散歩車用物置設置 0歳児室・ホール床修繕 掲示板の設置 街灯2基設置
給湯器取り換え(0歳児)
- 8月 テラス研磨・塗装
- 10月 包丁殺菌庫取り換え
- 11月 コンセント増設
- 1月 床暖コントロール取り換え
- 2月 非接触水栓取替工事(補助金を活用)
- 3月 給湯器取り換え(洗濯室)

(4)年間行事等実施状況

1 行事・避難訓練・会議等

| 月 | 行事等 | 避難訓練 | 会議等 |
|---|--|---------------------------------|--|
| 4 | 入園を祝う会(新入園児15名) 誕生会 みそづくり(年長児) 端午の節句 | 火災 ・非常ベルの音を聞く ・おはしもの話 | リーダー会議 定例職員会議 給食・パート会議 |
| 5 | 誕生会 クラス懇談会(全クラス) | 火災 ・園庭に避難 ・通報訓練(確認) | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 ケース会議 以上児会議 |
| 6 | 誕生会 園児健診(堀口クリニック) 個人面談(全家庭) | 地震→火事 ・情報収集 ・通報訓練 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 |
| 7 | 誕生会 歯科検診(エンゼル歯科) おとまり会(年長児) | 地震(午後) ・防災食調理 ・延長時間の訓練 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 ケース会議 おとまり会実行委員会 |
| 8 | 交通安全教室(コロナの為中止) セタ(クラス単位で) | 火災 ・消火訓練(中央防災) | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート職員会議 運動会実行委員会 |
| 9 | 親子遠足(コロナの為中止) 誕生会 運動会(2歳児クラスから) | 地震・大津波 ・商業高校まで避難 ・連絡体制の確認 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 未満児交流会 運動会実行委員会 |
| | 誕生会 | 総合火災避難訓練 | リーダー会議 定例職員会議 |

| | | | |
|----|--|---|---|
| 10 | おたのしみ会ごっこ(2歳児発表) | <ul style="list-style-type: none"> 通報訓練 消火訓練 防火服着装訓練見学 | 給食会議 パート会議 クラス会議 以上児会議 おたのしみ会実行委員会 |
| 11 | 誕生会 言葉の発達相談 おたのしみ会→12月に延期 職員健診(～1月) | 地震 <ul style="list-style-type: none"> 停電を想定した訓練 照明等備品の確認 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 以上児会議 おたのしみ会実行委員会 |
| 12 | おたのしみ会(3歳児クラスから) もちつき クリスマス・誕生会 園児健診(堀口クリニック) | 火災 <ul style="list-style-type: none"> 通報訓練 園長不在時を想定 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート職員会議 クラス会議 ケース会議 |
| 1 | 鏡開き・お正月あそび わらべうた 誕生会 集合写真撮影 懇談会(年長) | 地震・大津波 <ul style="list-style-type: none"> 商業高校まで避難 冬の避難方法の確認 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 クラス会議 |
| 2 | 誕生会 節分 買い物ごっこ(園開放) 集合写真撮影 | 火災 <ul style="list-style-type: none"> 冬の身支度訓練 | リーダー会議 定例職員会議 給食会議 パート会議 未満児交流会 卒園式実行委員会 |
| 3 | ひな祭り・誕生会 文集製本 卒園式 SL 遠足 クラス懇談会(0～4歳児クラス) お別れ進級会 入園説明会 | 地震(予告なし)・まとめ <ul style="list-style-type: none"> 会議で災害時のマニュアルの確認を行う。 | リーダー会議 新年度準備会議(定例職員会議を含む) |

2 研修

| 月 日 | 研修内容 | 参加者 |
|--------------|---|---------|
| 4月26日 | 新人研修(両園) | 1名(新人) |
| 5月19日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・4歳児 | 5名 |
| 5月28日 | 園内研修(発達支援 キッズセンター・高野先生 どんぐりの保育・戸外遊びについてグループ討議) | 8H・加配職員 |
| 6月 6日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・3歳児 | 5名 |
| 6月 7日 | 接遇(保育協議会) | 1名(中堅) |
| 6月 9日 | 食育(保育プラザ研修・リモート) | 栄養士 |
| 6月13日 | 発達支援(釧路短大・小林先生)(私保連) | 8H・加配職員 |
| 6月28日 | リーダーシップとチーム作り(保育協議会) | 1名(主任) |
| 7月 8日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・5歳児 | 4名 |
| 8月21日 22日 | 全国保育団体合同研究集会(リモート) | 1名(新人) |
| 8月30日 | 子どもを取り巻く環境から愛着を考える(私保連) | 9名 |

| | | |
|--------|--------------------------------|----------|
| 9月 1日 | 発達支援(臨床心理士・安澤先生)・5歳児 | 4名 |
| 9月 9日 | 幼児教育(保育協議会) | 8名 |
| 9月29日 | 発達支援(臨床心理士・安澤先生)・3歳児 | 5名 |
| 10月 7日 | 公開保育(弘済会・釧路認定こども園) | 1名(中堅) |
| 10月19日 | 発達支援(釧路短大・小林先生)(私保連)(リモート) | 8H・加配職員 |
| 11月 6日 | 全道保育団体合同研究集会(リモート) | 1名(新採) |
| 11月14日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・4歳児 | 4名 |
| 11月30日 | 子育て支援連携会議研修 | 1名(リーダー) |
| 12月15日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・5歳児 | 4名 |
| 12月26日 | 発達支援(臨床心理士・安澤先生)・2歳児 | 5名 |
| 12月~1月 | キャリアアップ研修(3分野)(リモート) | 4名 |
| 1月12日 | わらべうた(横川先生)・以上児 | 各クラス職員 |
| 1月13日 | わらべうた・未満児 夜 保育士研修(園内) | 夜13名 |
| 1月16日 | 発達支援(臨床心理士・安沢先生)・4歳児 | 4名 |
| 1月26日 | 接遇(保育協議会) | 1名(中堅) |
| 1月27日 | お散歩マップ・安全確認(園内) | 15名 |
| 2月10日 | 保育の質を高める職員のチームワークづくり(柏木さん)(園内) | 16名 |
| 2月28日 | 発達支援の振り返り(臨床心理士・安沢先生) | 8H・加配職員 |

(5)園の自己評価と課題

別紙

昭和どんぐりの家保育園 保育園の自己評価表

4できている 3概ねできている 2一部検討を要する 1改善を要する

| 評価項目 | 内容 | 自己評価 | 評価と課題 |
|-----------------|---|------|--|
| 保育課程 (全体の計画) | ア) 保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達を踏まえ、ねらい及び内容が保育所生活の全体を通して、総合的に展開されるようつくりされているか。 | 3.79 | 指針に基づいた保育所の役割を確認し、法人の理念や保育目標を確認しながら全体の計画を立てている。発達段階を踏まえた全体の計画は、大きく変わるものではないが、昨年度の課題をもとに今年度の目標を全体の計画に反映させている。今年度はこども理解(発達支援)と保護者支援を重点項目として取り組んだ。また、グループワークを通してどんぐりの保育を語り合う場を設定した。 |
| | イ) 地域の実態、子どもや家庭の状況、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しを持って、適切に編成されているか。 | 3.79 | |
| | ウ) 子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、創意工夫して保育できるように編成されているか。 | 3.71 | |
| 指導計画 | ア) 保育課程に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育が適切に展開されていたか。 | 3.79 | 全体の計画・保育目標を柱に、クラスの実態に合わせて年間カリキュラムを立て、短期の計画に反映させ、振り返り修正しながら実践している。 |
| | イ) 3歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等の即して、個別的な計画を作成しているか。 | 3.86 | |
| | ウ) 長時間にわたる保育については、心身の状態に十分配慮して、保育の内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携等配慮し保育をしたか。 | 3.62 | |
| 小学校との連携 | ア) 子どもに関する情報を共有して、保育所に入所している子どもの就学に際し、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されているか。 | 3.93 | 保育要録を作成し送付している。また、引き継ぎシートを活用し、小学校と情報共有を行った。特別支援のお子さんは直接学校を訪問しマリモでの引継ぎを行ったが、マリモの作成にはもう少し熟考が必要である。 |
| 家庭及び地域との連携 | ア) 地域の保護者等に対して、保育所保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に努めているか。 | 3.43 | 今年度はコロナが散発し、地域の方との交流はなかなかできなかったが、2月に3歳児クラスのごっこ遊びに園開放のお客さんが参加し、楽しく交流することが出来た。 |
| | イ) 地域の関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努めているか。 | 3.43 | |
| 子どもの健康支援 | ア) 保健計画を作成し、職員が、一人ひとりの健康状態を適切に把握しているか。 | 3.71 | 昨年の反省をもとに、保健計画を意識的に会議に組み込んだ。 |
| | イ) 子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、嘱託医等により定期的に健康診断を行い、その結果を記録しているか。 | 3.93 | |
| | ウ) 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医やかかりつけ医と相談し、適切な処置を行っているか。 | 3.79 | |
| | エ) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めているか。 | 3.93 | |
| | オ) 食中毒やその他の食生活の安全確保に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めているか。 | 3.93 | |
| 食育の推進 | ア) 健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としているか。 | 3.54 | 食も保育の大切な一環として大切にし、展示食やレシピの発行などで保育園からの情報を発信している。総合的にはどんぐりの給食は安心でおいしいと評価を受けているが、保育現場からの声として、離乳食の形状についてこどもの状態に合わせた対応などの意見が複数出された。そのため昨年度よりも評価が下がっている。担任と栄養士とで確認をしながら進めてきたが、0歳児会議に栄養士が参加するなどの工夫が必要かもしれない。アレルギー・偏食等は職員で情報共有し対応しているが変更時に全員に周知されるまでの対応が遅いので迅速に行いたい。 |
| | イ) 子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しんでいるか。 | 3.57 | |
| | ウ) 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われているか。 | 3.43 | |
| | エ) 食物アレルギー、陣害のある子どもなど、心身の状態に応じ、適切に対応しているか。 | 3.86 | |
| 環境及び衛生管理並びに安全管理 | ア) 施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の環境の維持に努めているか。 | 3.57 | 夏場の暑さ対策として0歳児室に扇風機を購入した。テラスや遊具でとげを指す園児が多いため、テラスの塗装を実施した。翌年度に遊具の修繕を行う予定。定期的に担当者が点検を行いその都度危険個所の修繕を行っている。職員の入れ替わりがあったため、散歩コースでの安全についてグループ討議を行うなど職員間での共有を行った。午睡時の呼吸チェックが大変なので、見落としがないようアプリの導入をしようかと意見も挙げられたので職員で検討していきたい。夏の熱中症対策が心配との声があるので、その都度確認を行ってきたい。 |
| | イ) 事故防止の取り組みを行う際には、特に睡眠中、水遊び中、食事などの場面で重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じているか。 | 3.57 | |
| 災害への備え | ア) 防火設備、避難経路などの安全性が確保されるよう定期的に安全点検を行っているか。 | 3.86 | 点検・避難訓練は定着している。マニュアルはあるが細かな動きを全員が把握しているわけではないので、見える所に貼り紙をしてほしいとの意見が上がった。目で見てわかりやすいマニュアルの掲示を工夫していきたい。それにとどまらず、様々な場面を想定して訓練を行う中で、一人一人が災害時に考えて行動できる力を身につけていきたい。訓練の中では、避難先からの連絡訓練や、保護者への訓練メールの送信なども行った。メールを開かない家庭もあるため、昨年からの課題であるアプリの導入の検討が必要である。 |
| | イ) 火災や地震などの災害の発生への備え、緊急時の対応や具体的な内容および手順、職員の役割分担、避難訓練計画などに関するマニュアルを作成しているか。 | 4 | |
| | ウ) 定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っているか。 | 4 | |
| | エ) 災害の発生時に、保護者などへの連絡および子どもの引き渡しを円滑に行うため、連絡体制や引き渡し方法について確認をしているか。 | 3.86 | |

| | | | | |
|----------|----|---|------|---|
| 子育て支援 | ア) | 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を重視しているか。 | 3.86 | 保護者の子育て支援の一つとして、今年初めて全家庭を対象に個人面談を実施した。園の様子や家庭の様子を伝えあい、双方が子どもをより理解することに繋がった。今後も継続していききたい。クラス懇談会は短時間だが2回実施した。DVDの上映は好評である。コロナ禍で保護者同士の交流の場があまり作れなく、保護者同士が自分の子ども以外の子どもを理解しあい、保護者の悩みに寄り添う事が以前より難しくなっている。保護者をつなぐ場の大切さを感じた年でもあった。そんな中、今年度は年度の途中で職員の退職があり担当が変わるなど、園内が落ち着かない状況ではあったが、保護者に支えられた事を感謝したい。 |
| | イ) | 保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有出来ているか。 | 3.86 | |
| | ウ) | 一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう適切に支援しているか。 | 3.64 | |
| | エ) | 子育て等の関する相談や、助言にあたっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を培っているか。 | 3.57 | |
| | オ) | 連絡ノートやおたより等で、子どもの状態を伝えているか。 | 3.71 | |
| 職員の資質の向上 | ア) | 子どもの保育及び保護者に対する保育の指導が適切に行われるように、保育所内外の研修を通じて、必要な知識及び技術の習得がなされているか。 | 3.64 | 職員の入れ替わりが多く、まだみんなでどんぐりが大切にしたい保育の共有ができていないのではないかと意見が出された。職員間での親睦もできない中、わらべうたの研修で交流し、グループ討議の機会を設ける中で自分もこの園の主体と感じてもらいたいと願い研修を行ってきた。その中で、安全管理の研修は大切なので全職員の参加が望ましいのではとの声もあった。検討していきたい。 |
| | イ) | 職員一人一人が主体的に学ぶとともに、他の職員や地域の関係機関等、様々な人や場との関わりの中で共に学び合うことで、保育所の活性化を図っているか。 | 3.71 | |
| 施設長の責務 | ア) | 保育所の役割や社会的責任を遂行するために、その専門性の向上に努めているか。 | 3.93 | 年度途中で職員の退職があり、職員が働き続けられる環境と職員集団作りを考えてきた一年であった。職員面談を行う中で課題も見え、法人と相談しながら運営してきた。細部を見るのではなく、園がどのような願いを持っているのかという原点に返る事で方向が見えてきたように思う。職員と学びあいながら、理念を大切に運営していきたい。 |
| | イ) | 職員が、保育所の様々な課題について共通理解を深め、協力して改善に努めることが出来る体制を作っているか。 | 3.79 | |

評価結果と改善点について

- ・職員の入れ替わりがあり、昨年度の評価結果との比較にはならない部分もあるが、多くの項目で昨年度と同等またはそれ以上の評価となった。
- ・「家庭及び地域との連携」は具体的なイメージが持てず昨年と同等の評価で改善は見られなかった。
- ・評価が下がった項目は、食育の推進の「乳児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われているか」の部分であった。発達に合わせた離乳食を提供しているが、栄養士と現場の保育士の会議の場がなかったので、毎月のクラス会議に栄養士が参加し離乳食の状況を意見交換する場を設定していきたい。

2022年度の重点項目に対する評価

- ・「子育て支援」・・・コロナ禍ではあったが、対面での関りを大切に、個人面談・クラス懇談会(2回)を行うことが出来た。
園だよりでは「お散歩コース」を紹介し、ホームページへも掲載している。
給食だよりは年4回発行し、給食のレシピを掲載するなど、家庭へ情報提供したが、ホームページの掲載には至らなかった。

2023年度の重点項目

- ・「子育て支援」・・・個人面談・クラス懇談会の実施
園だよりで親子遊びの発信「わらべうた」
給食だより・レシピの発行。給食試食会の実施。
親の会との連携 夏祭りの実施 茶話会の実施
- ・「家庭及び地域との連携」
・・・地域の子育て支援役割として園開放事業を充実させる。
→スモールステップとして今年行った保育活動と連動した園開放を意識的に設定してみる。

(1) 総括

- ・2022年度は、コロナの波が夏と冬にかけて二度に渡り押し寄せ、コロナ陽性に悩まされた年度でした。コロナ感染が一瞬拡がった時期もありましたが、保護者の方々のご協力のお陰で、乗り越える事が出来ました。コロナ禍での保育・行事等では、色んな制限がある中での生活は窮屈な面もありましたが、保育を見直すきっかけとなり、「保育の中で出来ること」「子ども達に経験させたいこと」を職員と共に考え、工夫して対応する事が出来ました。環境整備についても、子ども達の安全に関わる面での修繕を優先に行い、その他では劣化や老朽による修繕を行う事が出来ました。今後も、事故防止と感染対策を行い対応して行きたいと思えます。
- ・職員については、2022年度は5名の退職者がありました。退職の理由は様々でしたが、職員関係が理由になっている方もいました。また、退職に伴い職員が入れ替わる事で、新たな職員関係づくりが必要となり、落ち着かない状況が続いています。職員の関係性作りについては、毎年「課題」がありますが、職員が安心して働き続けられ環境作りを行い、交流を深められる場として「両園の保育士間交流」なども視野に入れて検討して行きたいと思えます。
- ・保護者支援では「個人面談」を取り入れ、園児の様子・悩み・課題などについて話し合う機会を設け、登降園の中で伝えきれない事や家庭での様子を聞き、悩みに寄り添い共感する事が出来ました。クラス懇談会では、クラス集団としての様子の伝え合いや普段見る事の出来ない園で様子をビデオ上映し伝えています。保護者家庭の中には、支援を必要としている家庭や配慮が必要な家庭など様々な家庭背景があります。保護者の方が安心して子どもを預けられる保育園として、信頼関係づくりを丁寧に積み重ね、家庭に合わせた援助を行えるよう職員一同心掛けて行きたいと思えます。そして、コロナ禍で親の会の活動も中止となりましたが、保護者間での「交流の場」とし再開して行けたらと思えます。

(2) 保育園の運営状況

* 年間利用者数：園児数（人）・一時保育（利用日数）

| | 園児 | 一時 | | 園児 | 一時 | | 園児 | 一時 |
|-----|----|----|-----|-------|----|-----|----|----|
| 4月 | 71 | 0 | 5月 | 72→71 | 0 | 6月 | 71 | 3 |
| 7月 | 72 | 10 | 8月 | 72→71 | 16 | 9月 | 71 | 28 |
| 10月 | 71 | 18 | 11月 | 71 | 19 | 12月 | 71 | 18 |
| 1月 | 71 | 22 | 2月 | 71 | 17 | 3月 | 71 | 33 |

* 職種別職員数(3月末日現在)

| 園長 | 保育士(パート) | 栄養士 | 調理員 | 事務 | 用務 |
|----|----------|-----|-----|----|----|
| 1名 | 25名(11名) | 1名 | 4名 | 1名 | 2名 |

(3) 2022年度の課題に対する評価

1 保育園の管理運営の充実

両園長での話し合いや打ち合わせは、必要に応じて行う事が出来ましたが、次年度に向けては、両園長での打合せを月に一度実施する計画を立てたいと思えます。また、両園長・主任会議等も、必要に応じ開催したいと思えます。

法人の「施設監査」が行われましたが、施設長としての役割の大きさを痛感いたしました。

今後も保育園の管理運営の充実に向け、施設長の果たす役について知識を深め、努力して行きたいと思います。

2 研修の充実

コロナ禍のため、外部研修に参加する機会は少なかったのですが、web研修を活用し「発達についての研修」を行い、園内研修では「どんぐり保育園で大切にしている保育の柱」（安心の中で育ち合う・体づくり・仲間づくり・豊かな生活体験・食生活を豊かに・子育て支援）についてグループ討議し、改めて保育の中で大切にしたい関わりについて確認し合う事が出来、学びに繋がる研修会になりました。また、わらべうた研修では、講師の方に実際に保育室に入って貰った中で学び、保育実践に繋がる良い機会となりました。今後も、職員のキャリアアップを目指し研修計画を立て実施したいと思います。

3 職員の確保

処遇改善を行い、毎月の手当として支給しています。

ハローワークを通じての職員確保には繋がらず、紹介業者を通じての職員確保が主流となっています。紹介料とは別に経験年数の加算もあるため、運営費の大きな痛手となっています。職員確保問題については、今後も大きな課題だと感じています。

4 コロナ対策・安全・リスクマネジメントの取り組み

日々の保育の中で、安全に考慮した事故防止対策・防災対策につきましては、毎月の定例職員会議・避難訓練実施の中でその都度確認しています。更に、園児の事故防止対策としまして、ヒヤリハット報告（事例）の活用を行い、職員間での情報共有を図り、事故防止対策と安全管理体制を強化して行きたいと思います。

コロナ禍のため3年間中止となっていた「救命救急研修」を再開したいと思います。

5 各種既定の整備

就業規則と経理規定の見直しを行いました。就業規則については、各自いつでも確認できるよう印刷した物を休憩室に置き対応致しました。今後も、各種規定の整備・変更等が必要になった場合は、職員へ周知して行きたいと思います。

6 法人ホームページ・園のリーフレットの更新

法人ホームページ・園のリーフレットを更新いたしました。

入園のしおりについても「苦情解決について」の一文をいれ、玄関掲示も行い周知いたしました。

7 ICTの活用

職員の業務軽減を行うため、アプリ（ルクミーフォト）を導入し、写真販売を開始いたしました。今後も、業務負担軽減を行える内容の取り組みを検討したいと思います。

8 経営の課題

保育士不足と確保についての課題が大きいと感じています。職員の入れ替わりがある事で「どんぐりで大切にしたい保育の継承」についても、年々難しくなってきました。また、困り感や支援の必要な園児も増えて来ている事で、丁寧な関わりや手立てを行うには、人手不足は深刻な問題です。少しでも保育の中で「ゆとり」が持てる職員確保の予算化を図り、どん

ぐり保育園で働き続けられる環境を整備したいと思います。

修繕については、老朽化や劣化などがあちこちで生じてきているので、毎月の「自己点検表」を」活用しながら、対応して行きたいと思います。

9 修繕等

- ・砂場柵修繕、砂場専用ネット劣化のため交換
- ・子どもの飛び出し対応用安全ネット設置（2・3歳テラス付近）
- ・給食室：ガスコンロ（五徳）劣化のため交換、換気扇柵の修繕
- ・1、2歳保育室内の仕切り柵を移動可能型から固定の柵を設置
- ・園庭水道、非常階段下周りにクッション材の取り付け（安全対策・事故防止）
- ・ポイラー修繕 3年計画の2回目実施、ポイラー給湯器水漏れ修繕
- ・玄関掲示板2ヶ所を磁石対応掲示板に変更 ・トイレタンク劣化のため交換（1台）
- ・インターフォン子機故障、3歳保育室レースカーテン劣化のため購入
- ・コロナ補助金の活用（換気用扇風機設置・非接触蛇口設置・備品購入）

(4)年間行事等実施状況

1 行事・避難訓練・研修

| | 行事 | 避難訓練 | 研修 |
|-----|--|---------------|---|
| 4月 | 入園式 端午の節句 | 地震・火災時の避難方法 | 新人研修 |
| 5月 | | 地震 | 園内研修 |
| 6月 | | 地震から火災 | 保協研修（接遇マナー） ムーミン谷懇話会 アレルギー研修会（栄養士） 保協研修（主任コーチング） わらべうた研修（未満児） |
| 7月 | おとまり会 ミニミニ運動会 | 地震から津波 | わらべうた研修（以上児） |
| 8月 | 七夕 親子遠足（全園児） | 火災 | 私保連研修（愛着形成） |
| 9月 | 運動会（2歳以上） | シェイクアウト訓練 | 私保連研修（園訪問） 保協研修（幼児保育） |
| 10月 | 運動会ごっこ（0.1歳） 七五三 | 総合避難訓練 | わらべうた研修（以上児） |
| 11月 | おたのしみ会 （コロナ感染により延期） | 地震から停電 | わらべうた研修（未満児） |
| 12月 | おたのしみ会 （2歳・4歳のみ開催） （3歳2月にビデオ上映） （年長組は卒園式二部で開催） もちつき会 クリスマス会 | 地震 一斉送信メール | キャリアアップ研修 |

| | | | |
|----|-------------------------------------|---------|------------------------------|
| 1月 | 鏡開き お正月遊び | 火災 | キャリアアップ研修 |
| 2月 | 節分（外開催） | 地震から大津波 | 私保連研修（発達支援について） キャリアアップ研修 |
| 3月 | ひな祭り会 卒園式 冬の遠足（年長組） お別れ進級会 | 地震 | |

*その他に、各年齢の発達についてのWeb研修の実施いたしました

2 会議

*出来るだけ夜の会議を減らし、昼の時間帯での会議にし、遅くならないよう進行を行い次の日に疲れを持ち越さない対応を行ってきました。

- ・定例職員会議、リーダー会議、給食会議、パート職員報告会：毎月1回
- ・カリキュラム会議・・・職員の負担軽減を図り会議の見直しを行いました
以上児クラス：3ヶ月に1回
未満児クラス：個人カリキュラムを反映させクラス会議を有効に活用し
交流会として年間3回
- ・クラス会議：毎月1回（4月・8月・3月はなし）
- ・ケース会議：カリキュラム会議見直しに伴い3ヶ月に1回
- ・おとまり会打ち合わせ：6月・7月 ・運動会実行委員会：8月・9月
- ・おたのしみ実行委員会：10月・11月 ・卒園式実行委員会：2月・3月
- ・新年度準備委員会：3月21日

(5)園の自己評価と課題

*保育園の自己評価：別紙参照

【課題】

2022年度も、職員による「自己評価」の記入をして貰いました。職員からの評価を目の当たりにする事で、現在の園の在り方や今後の課題などが見えてくると感じています。職員の率直な意見を反映させ、今後もより良い保育園づくりを目指して行きたいと思えます。

治水どんぐりの家保育園 保育園の自己評価表

4.できている 3.概ねできている 2.一部検討を要する 1.改善を要する

| 評価項目 | 内容 | 自己評価 | 意見 |
|-----------------|---|------|---|
| 保育課程 (全体の計画) | ア) 保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達を踏まえ、ねらい及び内容が保育所生活の全体を通して、総合的に展開されるようつくりされているか。 | 3.4 | ・1日の全体を通して、静の遊び・動の遊びをバランス良く計画立てをし、活動できていると感じる。 ・遊びの中でも、保育士に何でもすぐ求める子どもの姿が多く感じる。自由に行える工作遊び等、取り入れられたら良いと感じる。 ・以上児童種やクラス会議で、それぞれ見直しを持って保育計画を立てていると感じられる。 |
| | イ) 地域の実態、子どもや家庭の状況、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見直しを持って、適切に編成されているか。 | 3.6 | ・子どもの成長に合わせて保育も考えられており、発達に合わせた内容になっている。 ・生活の流れも、毎日行う事で習慣化して行き、流れを掴む力がついてくると思う。 |
| | ウ) 子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、創意工夫して保育できるように編成されているか。 | 3.5 | ・子ども主体として、動いていると感じる。 ・子どもの家庭状況に応じて、配慮があると感じる(保護者に対して・子ども同士のことに關して) |
| 指導計画 | ア) 保育課程に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育が適切に展開されていたか。 | 3.5 | ・先を見据えた制作活動など、次へと繋がる関わりが生活を通して出来ていると感じる。 |
| | イ) 3歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等の即して、個別的な計画を作成しているか。 | 3.6 | ・個人カリキュラムで個人対して計画がされている。 |
| | ウ) 長時間にわたる保育については、心身の状態に十分配慮して、保育の内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携等配慮し保育をしたか。 | 3.4 | ・子どもの気持ちを受け止めながら、安心して過ごせるように配慮している。 |
| 小学校との連携 | ア) 子どもに関する情報を共有にして、保育所に入所している子どもの就学に際し、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されているか。 | 3.5 | ・他クラスの事が分からない事がある。(特に配慮を必要とする家庭について等) ・小学校との連携に関しては、しっかりと引継ぎがされている。 |
| 家庭及び地域との連携 | ア) 地域の保護者等に対して、保育所保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に努めているか。 | 3.3 | コロナ禍のため、なかなか地域との関わりを持つ事は出来ませんでしたが、園見学に来た来園者に向け挨拶をしたり、子どもへの声掛けや笑顔を向ける事で「保育士の方が優しく感じた」という感想を頂きました。ちょっとした関わりではあるが、こう言った積み重ねが大事だと感じます。 |
| | イ) 地域の関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努めているか。 | 3.2 | |
| 子どもの健康支援 | ア) 保健計画を作成し、職員が、一人ひとりの健康状態を適切に把握しているか。 | 3.3 | ・2023年度も保険計画を配布して欲しい。休憩室に掲示してはどうか。 |
| | イ) 子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、嘱託医等により定期的に健康診断を行い、その結果を記録しているか。 | 3.7 | ・嘱託医からの助言やアドバイスはとても貴重で、歯科検診・健康診断時に結果を伝える他にも、関わり方等についても相談し参考にしています。 |
| | ウ) 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医やかかりつけ医と相談し、適切な処置を行っているか。 | 3.6 | ・何か起きた場合、主任・園長に報告し対応できていると感じる。 ・子どもの異変に気づき、すぐに対応・処置などしていたと思う。 |
| | エ) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めているか。 | 3.6 | 園内で感染症が流行した場合は、感染拡大予防に努め、発生状況についても一斉送信メールや掲示で周知するなど工夫を行い対応しました。また、必要に応じ嘱託医にも対応を求め相談出来ました。 |
| 食育の推進 | ア) 健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としているか。 | 3.6 | ・クッキングについては、新年度会議で確認した事を意識して進めて行きたい。 ・給食ノートを読み、食材にまつわる知識や食べることの意義があるか等、分かりやすく伝えられている。 ・自分選で育てた食材を使ったクッキングを行い、食への興味・楽しみに繋がっていると思う。 |
| | イ) 子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しんでいるか。 | 3.6 | ・形状を考え、手づかみ食べを大切にしている。 ・その日のアレルギー食を確認し、対応できている。 ・未満児の食事の環境面、アレルギー児との距離の見直しは必要と感じる。 |
| | ウ) 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われているか。 | 3.6 | ・アレルギー児への配慮からの展開がマンネリになりつつある。 ・アレルギー児・離乳食と量など、調理スペース調理時間の確保が難しく、一人一人に合わせた栄養補充が課題。 |
| | エ) 食物アレルギー、障害のある子どもなど、心身の状態に応じ、適切に対応しているか。 | 3.6 | ・給食・おやつは手作りで、アレルギーに関しても職員間で常に確認・把握出来ている。 |
| 環境及び衛生管理並びに安全管理 | ア) 施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の環境の維持に努めているか。 | 3.4 | ・その都度、換気し清潔な空気の入れ替えを行っている。 ・音に関しては、難しい部分があったと思う(施設外の音) |
| | イ) 事故防止の取り組みを行う際には、特に睡眠中、水遊び中、食事などの場面で重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じているか。 | 3.5 | ・環境の改善が必要な場所を早急に出来るように出来ると思う。 ・環境のための換気や公園などの園外の危険な物などの確認、午睡中など子どもの事故防止など、特に気を付けている。 |
| 災害への備え | ア) 防火設備、避難経路などの安全性が確保されるよう定期的に安全点検を行っているか。 | 3.8 | ・職員が沢山の午前中だけでなく、色んな状況で避難訓練を行う方が良い。 ・安全管理や危機管理の研修を行っていないので、取り入れて欲しい。 |
| | イ) 火災や地震などの災害の発生の際、緊急時の対応や具体的な内容および手順、職員の役割分担、避難訓練計画などに関するマニュアルを作成しているか。 | 3.7 | ・引き出しの訓練をした事がない。避難訓練に組み入れたり研修で確認したりする必要があると感じる。 ・職員で連携を固めている。 |
| | ウ) 定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っているか。 | 3.9 | ・避難訓練を定期定期に行っており、子ども運もどうするのか分かって来ていて、職員間でも新年度会議等で、今一度、消火器の位置の確認等を行っている。 |
| | エ) 災害の発生時に、保護者などへの連絡および子どもの引き渡しを円滑に行うため、連絡体制や引き渡し方法について確認をしているか。 | 3.4 | ・協立病院へ避難した際の連絡や引き渡しを今一度確認したいと思った。 |
| 子育て支援 | ア) 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を重視しているか。 | 3.5 | ・子どもの権利条約等についての意識が薄く感じられる。研修で学びが必要と感じる。 |
| | イ) 保護者ととともに、子どもの成長の喜びを共有出来ているか。 | 3.7 | ・子ども主体の保育を常に意識し、保育に努めている。 ・その日の嬉しい出来事等、ノートやお迎え時に伝え共有出来る。 |
| | ウ) 一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう適切に支援しているか。 | 3.5 | ・ノートに返答したり、お迎え時や必要な時には個人面談を設けたりと、関わりを大切にしていると感じる。 |
| | エ) 子育て等の関する相談や、助言にあたっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を培っているか。 | 3.5 | ・子ども達が出来るようになった事や成功体験など、日々の生活の中での様子は、直接共有し合える時はしており、連絡ノートでも伝えるようにしている。(直接伝えられる時は伝えられた方が、保護者の反応を見られたり出来る) |
| | オ) 連絡ノートやおたより等で、子どもの状態を伝えているか。 | 3.6 | |
| 職員の資質の向上 | ア) 子どもの保育及び保護者に対する保育の指導が適切に行われるように、保育所内外の研修を通じて、必要な知識及び技術の習得がなされているか。 | 3.5 | ・コロナ以前に比べ外部研修が減ったため、特に経験の浅い職員の学びの機会が減っている。 ・昨年からは少しずつ研修が増えているが、自主的に学ぼうとする姿勢が見られないように感じる。職員1人1人がもつ力をつけたい。 |
| | イ) 職員一人一人が主体的に学ぶとともに、他の職員や地域の関係機関等、様々な人や場との関わりの中で共に学び合うことで、保育所の活性化を図っているか。 | 3 | ・園全体の保育力が落ちていくように思う。 ・園内研修やその他の研修等、積極的に参加している。 ・コロナ禍で難しい事が続いたが、これから復活出来ていくと思う。 |
| 施設長の責務 | ア) 保育所の役割や社会的責任を遂行するために、その専門性の向上に努めているか。 | 3.8 | ・向上ではなく、現状維持になっているように感じる。・両面での違いや差があるように感じる。どっちに動いても園環境に差がないように出来る方法はないかと考えている。・1人の責任や責任の大きさを覚えているように感じる。・保育士間で保育所の事も話し合いもあつたり、課題についても共有して職員それぞれ意識して行っている。 |
| | イ) 職員が、保育所の様々な課題について共通理解を深め、協力して改善に努めることが出来る体制を作っているか。 | 3.4 | |